

PAT-NO: JP360161020A
DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 60161020 A
TITLE: SCREW CUTTER
PUBN-DATE: August 22, 1985

INVENTOR-INFORMATION:
NAME
NAGAI, SHIGERU

ASSIGNEE-INFORMATION:
NAME COUNTRY
NAGAI SHIGERU N/A

APPL-NO: JP59017936
APPL-DATE: February 1, 1984

INT-CL (IPC): B23D029/02
US-CL-CURRENT: 30/182, 30/250

ABSTRACT:

PURPOSE: To simply cut a long screw bolt, etc., to a prescribed length without fail by providing a ratchet mechanism and a reaction handle on both ends of a cutter body and moving a cutting edge forward and backward with use of said ratchet mechanism.

CONSTITUTION: Upon cutting a long screw bolt, etc., they are set in a notched groove 3 formed in the recessed inner surface of a cutter body 1, and gripping a reaction handle 9, the nut 6 of a ratchet 5 is rotated. Thereupon, a moving shaft 10 is advanced via a shaft 16 and a screw

shaft 15 and a cutting
edge 2 is brought into contact with the long screw bolt,
etc. Then, a handle 8
located below the ratchet 5 is moved forward and backward,
and thereby the
cutting edge 2 is forced to eat, for successive cutting, in
the long screw
bolt, etc. Hereby, the long screw bolt, etc., can be simply
cut to a prescribed
length without fail.

COPYRIGHT: (C)1985,JPO&Japio

⑫ 公開特許公報 (A)

昭60-161020

⑬ Int. Cl. 4

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和60年(1985)8月22日

B 23 D 29/02

C-8207-3C

審査請求 未請求 発明の数 1 (全2頁)

⑮ 発明の名称 ネジカッター

⑯ 特 願 昭59-17936

⑰ 出 願 昭59(1984)2月1日

⑱ 発 明 者 長 井 繁 太宰府市大字太宰府4222の93

⑲ 出 願 人 長 井 繁 太宰府市大字太宰府4222の93

明 細 書

1. 発明の名称

ネジカッター

2. 特許請求の範囲

1. 本体 (1) にラチェット機構 (5) と反力ハンドル (9) を持ち、切断歯 (2) とネジヤット (15) と移動軸 (10) とからなるネジカッター。
2. 本体 (1) に 切込溝 (3) と (4) があり
(3) はネジボルトが半程程度は入り込む
(4) は切断歯 (2) が 3分の1 程度は入り込むものである。
3. 移動軸 (10) はネジヤット (15) と止めネジ (13) で連結されたもので、移動軸 (10) は回転止め (11) を持つ
4. 反力ハンドル (9) には手を握るのに、握りやすく凹凸を付けたもので長ネジボルトが反力ハンドル (9) に緊着する様に切り込み溝を入れたものである
5. 回転ヤット (16) を持つもの。

3. 発明の詳細な説明

この発明は長ネジボルト等を切断するに際するものである。

従来管工事等で支持金物等を取りつけるに当り長ネジボルト等を所定の長さに切断するに、今迄は金切ノコヤ、逆気ガスクランパー、高速カッター等で切断していたが、高所や狭い所では作業に非常に困難を極め、又危険な所 (例 - 特に緊急しやうい所等) では、おぼろであった。

本発明は、従来、作業に伴っていた上記のような欠点から解放され、未熟練者でもいとも簡単な操作により、任意に正しい規格の方法が短時間のうちに素早く、その場で出来るようにしたものである。

それは本体 (1) に、反力ハンドル (9) 及びラチェット機構 (5) により、切断歯 (2)、ネジヤット (15)、移動軸 (10) を作用させ、長ネジボルトを切断するようになる。

図面を説明すると、(第一図、斜視図)
切込溝 (3) に長ネジボルトを入れ反力ハンドル (9) を左手で握り、ラチェット (5) の右 (6) のヤットを右に

回す、シャフト(16)を振動させ、ネジシャフト(15)でもって移動軸(10)を左方に押しやり(第二図)切断歯(2)が前記(3)にセットした長ネジボルトに接する。この後にシャフト(5)の下(18)を右手で前後に動かすと(矢印)切断歯(2)が長ネジボルトに食い込み、長ネジボルトの初半径程に達したら、セグメントがブツツリと切れ切断面はほとんどなめらかでヤスリ等をかけずにナットがスムーズにはいる。切断機を手の中に残った長ネジボルトは、高所での作業では、下方に落下の危険もない。又実際現場作業のときは天井面のコンクリートにあらかじめ埋め込まれたインサート(めねねじ)に定尺(1m)もの長ネジボルトをねじ込み、配管に必要な長さに切断するのである。この時、排水工事は水が流れるように特にコウバイ(No. 10等)を付けなければならず、長ネジボルトの切断寸法が一本一本ちがうので、未だ同一寸法に切ることが不可能なので本発明のネジカッターを使用すると、一本一本確実に高所で長ネジボルトを取り付けたま寸法を取り切断して電気を使用せず手動で切れしかも切り口が比較的なめらかなのでパイプ支持具のナットなどがその利

切断面の返りを取りずには入るので作業が安全に、しかも手動で出来るので作業効率も今迄より数段の進歩である。

4. 図面の簡単な説明

第一図はこの発明の斜視図である。

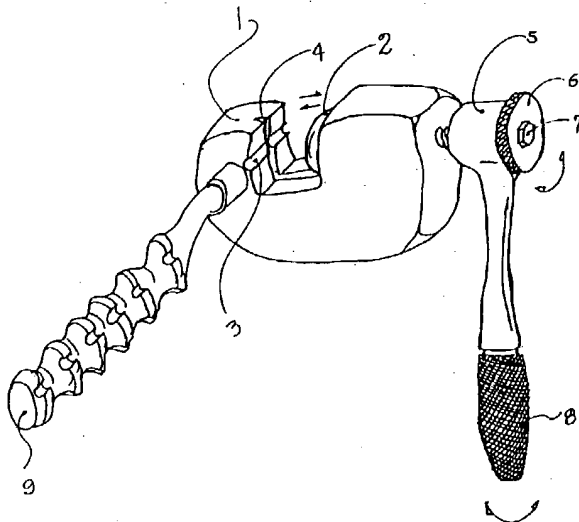
第二図はこの発明のシャフト部分の(2)から(8)と(12)(16)迄の分解、組立図である。

第三図はこの発明の(2)と(10)と(15)と(11)部分拡大図である。

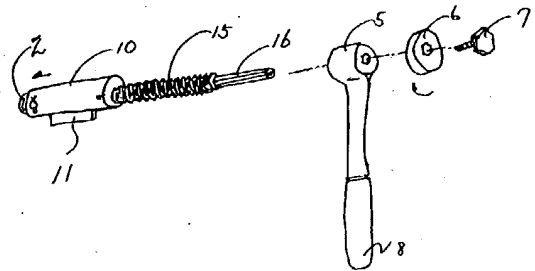
各部分の番号明細

(1) 本体、(2) 切断歯(丸型等)、(3) 切り込み溝、(4) 切込み溝、(5) ラチェット機構、(6) 回転ナット、(7) ボルト、(8) ラチェットの握り部分、(9) 反力ハンドル、(10) 移動軸、(11) 回転止め、(12)、(13) 止めねじ、(14) ヒン、(15) ネジシャフト、(16) 角シャフト。

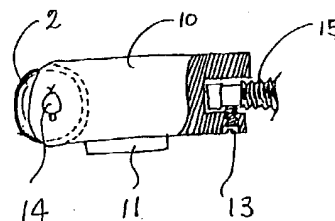
特許出願人 長井繁



第一図



第二図



第三図